

る。離れた二ヵ所に文字が認められるが、釈読できない。文字の一部が端部の切り込みに切られており、荷札状に二次利用される前の墨書とも考えられる。

9 関係文献

福岡市教育委員会『九州大学統合移転用地内埋蔵文化財発掘調査概報二一元岡・桑原遺跡群発掘調査』(福岡市埋蔵文化財調査報告書七四三、一〇〇三年)



(吉留秀敏)

中世の貿易都市・博多から出土した墨書資料の資料集成が、『博多研究会誌一一号』として刊行された。

本書は、一九九六年に刊行された同会編『博多遺跡群出土墨書資料集成』の統編で、一九九五年から二〇〇一年に刊行された四四冊の報告書を対象に、墨書土器・刻書土器と木簡総計九四二点(うち、木簡は博多一〇〇次・一〇三次・一二〇次出土の四点)の一覧表と一点ごとの実測図を収録したものである。

加えて同書には、菅波正人「福岡市出土の古代墨書土器集成」が収められており、市内二二遺跡から出土した二六〇点の墨書土器が、一覧表と一点ごとの実測図で簡便に検索できる。

B五版・一四四頁・二五〇〇円

問い合わせ先

福岡市教育委員会鴻臚館跡調査事務所 大庭康時氏宛

電話・FAX 〇九一一七二一一〇二八一

博多研究会誌一一号
—博多遺跡群出土墨書資料集成—

博多研究会誌一一号